

松江工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	英語 5
科目基礎情報					
科目番号	0039	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	人文科学科・数理科学科	対象学年	3		
開設期	前期	週時間数	4		
教科書/教材	教科書: Fundamental Science in English I、ワークブック (成美堂) / DataBase4500完成英単語・熟語 (桐原書店) / Focus on Listening Pre-Standard (エミル出版編集部)				
担当教員	服部 真弓, 福田 妙子				
到達目標					
<p>(1) DataBase4500の65%以上の語彙を認識できる。</p> <p>(2) 日常的または身近な自然現象に関する英語の文章を的確に読むことができる。</p> <p>(3) 日本語を介さずに理解できる英文の水準を自ら選び、自律的・継続的に読書できる。</p> <p>(4) 自然な速度で読まれる英語を聞いて概要や必要な情報を聞き取ることができる。</p> <p>(5) 日常的または社会的なトピックについて即興で簡単な英語のやり取りをすることができる。</p> <p>(6) 日常的または社会的なトピックについて準備した上で聞き手を意識したプレゼンテーションをすることができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	DataBase4500の70%以上の語彙を認識できる。	DataBase4500の65%以上の語彙を認識できる。	DataBase4500の60%以上の語彙を認識できる。	DataBase4500の60%以上の語彙を認識できない。	
評価項目2	教科書で扱うテキストの内容を十分理解できている。	教科書で扱うテキストの内容を理解できている。	教科書で扱うテキストの内容を概ね理解できている。	教科書で扱うテキストの内容を理解できていない。	
評価項目3	日本語を介さずに理解できる英文の水準 (YL1.5-2.5) を自ら選び、前期30000語以上のペースで自律的・継続的に読書できる。	日本語を介さずに理解できる英文の水準 (YL1.5-2.5) を自ら選び、前期20000語～30000語程度のペースで自律的・継続的に読書できる。	日本語を介さずに理解できる英文の水準 (YL1.5-2.5) を自ら選び、前期10000語～20000語程度のペースで自律的・継続的に読書できる。	日本語を介さずに理解できる英文の水準 (YL1.5-2.5) を自ら選ぶことができず、前期10000語程度のペースで自律的・継続的に読書できない。	
評価項目4	自然なスピードで読まれる英語の概要や必要な情報を正確に聞き取ることができる。	自然なスピードで読まれる英語の概要や必要な情報を聞き取ることができる。	自然なスピードで読まれる英語の概要や必要な情報を概ね聞き取ることができる。	自然なスピードで読まれる英語の概要や必要な情報を正確に聞き取ることができない。	
評価項目5	与えられたトピックについて即興で簡単な英語のやり取りをすることができる。	与えられたトピックについて、助け船などを得られれば即興で簡単な英語のやり取りをすることができる。	与えられたトピックについて、助け船などを得られれば何とか英語のやり取りをすることができる。	与えられたトピックについて、助け船などを得たとしても英語のやり取りをすることができない。	
評価項目6	与えられたトピックについて準備した上で聞き手を意識した効果的なプレゼンテーションをすることができる。	与えられたトピックについて準備した上で聞き手を意識したプレゼンテーションをすることができる。	与えられたトピックについて準備した上でプレゼンテーションをすることができる。	与えられたトピックについて準備した上でもプレゼンテーションをすることができない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 G3					
教育方法等					
概要	<p>高専本科5年間で育てたい人材像は、以下の通りである。</p> <p>「自分の専門分野に関する情報について、英語で理解し、やり取りができる、基礎的な英語運用力を身につけたエンジニア」</p> <p>本授業においては、既知の数学・理科の内容を英語で読むことによって、「知識」と「英語」を繋げるとともに、身近な自然現象を英語で表現する演習を行う。また、100万語多読・リスニング演習により、速く正確に読み聞く力を養成する。客観的な学習目標として、GTEC CEFR-J A2.2、実用英語技能検定2級レベル程度とする。</p> <p>※1月にTOEICを受験する。</p>				
授業の進め方・方法	<p>毎時間の小テストに加え、教科書読解と演習、リスニング演習、多読を週2回の授業で行う。</p> <p>教科書読解と演習については、予習を前提として進め、音読やretellingなどの活動を行う。</p> <p>Group Presentationの日程の詳細については、授業内で連絡する。</p>				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 予習を前提として授業を進めるため、予習の状況が著しく悪い場合には大幅な減点を行うことがある。 成績優秀者、再試験、追試験担当者などについて、学生番号・氏名を掲示して連絡することがある。 最終成績が30点以上で、課題の提出状況が芳しい学生のみを対象に再評価試験を実施する。 				

授業の属性・履修上の区分			
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週 授業ガイダンス Database単語テスト01、教科書Lesson 1、多読 Listening/Speaking Activity	加算を英語で表現できる。
		2週 Database単語テスト02-03、教科書Lesson 1、多読 Listening/Speaking Activity	減算を英語で表現できる。
		3週 Database単語テスト04-05、教科書Lesson 1、多読 Listening/Speaking Activity	乗算を英語で表現できる。
		4週 ※月例テスト Database単語テスト06、教科書Lesson 1、多読 Listening/Speaking Activity	除算を英語で表現できる。
		5週 Database単語テスト07-08、教科書Lesson 2、多読 Listening/Speaking Activity	様々な平面図形を英語で表現できる。
		6週 ※月例テスト、Group Presentation準備① Database単語テスト09、教科書Lesson 2、多読 Listening/Speaking Activity	平面図形の面積の求め方を英語で表現できる。
		7週 Database単語テスト10-11、教科書Lesson 2 Listening/Speaking Activity	「the square of」等の表現を活用して円の面積の求め方を英語で表現できる。
		8週 Database単語テスト12、教科書Lesson 2、多読 Listening/Speaking Activity	様々な空間図形を英語で表現できる。
	2ndQ	9週 中間試験 ※多読・リスニング・Database問題を含む	
		10週 試験返却、Group Presentation準備② Database単語テスト13-14、教科書Lesson 2、多読 Listening/Speaking Activity	「one third」等の表現を活用して空間図形の体積の求め方を英語で表現できる。
		11週 Database単語テスト15-16、教科書Lesson 3、多読 Listening/Speaking Activity	分子の組成を英語で表現できる。 ※Group Presentation 原稿 不 切【WBT】
		12週 ※月例テスト、Group Presentation準備③ Database単語テスト17、教科書Lesson 3、多読 Listening/Speaking Activity	物質の状態と融点・沸点の関係を英語で表現できる。 ※Group Presentation PPT 不 切【WBT】
		13週 ※Group Presentation【発表本番】 Database単語テスト18、多読 Listening/Speaking Activity	相手意識をもってプレゼンテーションできる。 ※Group Presentation 発表本番【授業時】
		14週 Database単語テスト19-20、教科書Lesson 3、多読 Listening/Speaking Activity	物質の状態と体積・質量の関係を英語で表現できる。
		15週 期末試験 ※多読・リスニング・Database問題を含む	
		16週 試験返却 Database単語テスト22-23、多読 Listening/Speaking Activity 前期のふり返り	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭に聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
				自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
					3	

			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	定期試験	課題 (DBテスト・春休み課題・月例テスト)	多読	プレゼンテーション	合計
総合評価割合	50	20	15	15	100
基礎的能力	50	20	15	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0